

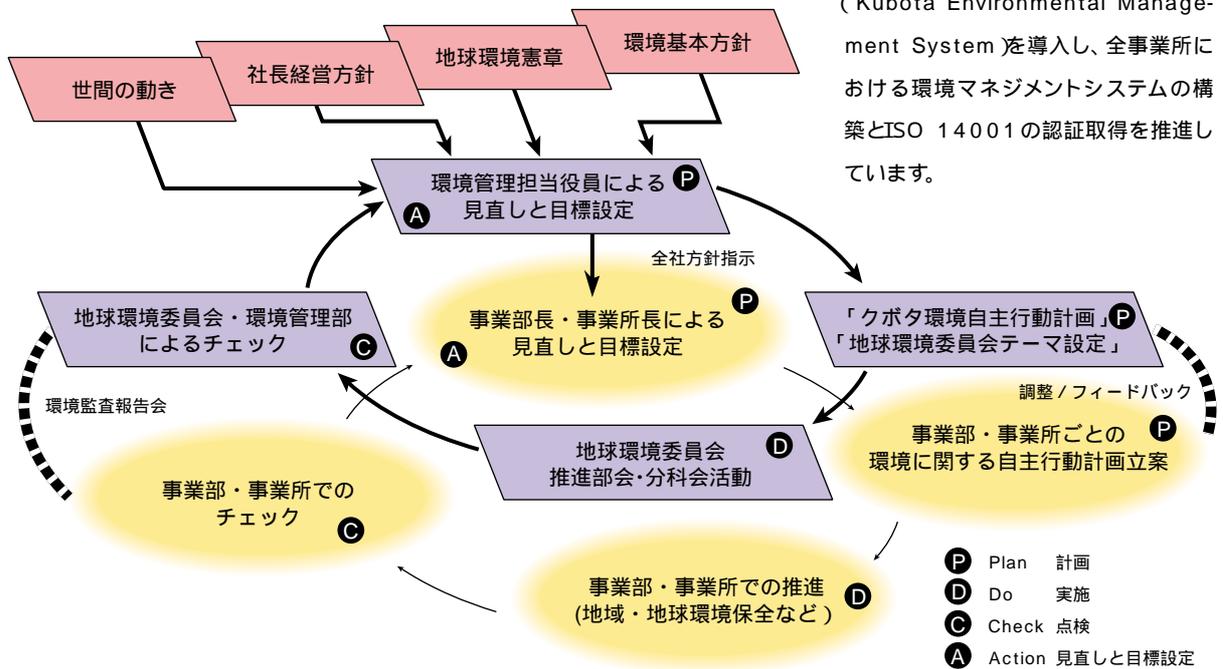
# 環境管理

## クボタ環境マネジメントシステム(KEMS)

1972年から、TPC(Total Pollution Control)をコンセプトとして、全員参

加による組織化された環境マネジメントを推進してきました。

1995年には、ISO 14001に準拠した環境マネジメントシステム「KEMS」(Kubota Environmental Management System)を導入し、全事業所における環境マネジメントシステムの構築とISO 14001の認証取得を推進しています。



### 地球環境委員会活動

クボタでは、1992年4月地球環境問題の解決に積極的に対処するため全社横断組織として環境管理担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置しました。第1期3年間ではオゾン層保護、地球温暖化防止など20テーマに取り

組み、特定フロン・トリクロロエタンの早期全廃、汎用ディーゼルエンジンで当時世界で一番厳しい米国CARB規制合格などの成果を上げました。

第2期3年間では、全20事業所でのISO 14001認証取得の推進、廃棄物のリサイクル対策など12テーマに取

り組み2工場で認証取得、廃FRPの粉碎・再利用化技術などの成果を上げました。

第3期は、1998年4月より活動を推進中で、その組織図を下記に示しています。

### 第3期地球環境委員会組織図



**ISO 14001 認証取得状況**

クボタは「環境管理能力向上」を進むべき方向の一つと定め、環境保全活動の重点推進事項の一つとして、「ISO 14001 認証取得の推進」を掲げています。

1999年9月現在、国内全20事業所のうち筑波工場をはじめ8事業所が認証を取得済みで、2000年度中には全20事業所での取得が完了する予定です。



**ISO 14001 認証取得状況 (1999年9月現在)**  
国内事業所

事業所	主要事業	認証機関・登録番号	認証取得年月
筑波工場	農業機械の製造	ロイドレジスタークオリティーアシュアランスリミテッド(LRQA) 771757	1997年11月
新淀川環境プラントセンター	環境施設の設計・開発	日本検査キューエー(JICQA) E 018	1997年12月
船橋工場	鋳鉄管の製造	ロイドレジスタークオリティーアシュアランスリミテッド(LRQA) 771890	1998年7月
竜ヶ崎工場	自動販売機の製造	デット・ノルスケ・ベリタス(DNV) EMSC-1273	1998年11月
武庫川製造所	鋳鉄管の製造	ロイドレジスタークオリティーアシュアランスリミテッド(LRQA) 772498	1999年3月
久宝寺工場	精密機械製品の製造	デット・ノルスケ・ベリタス(DNV) EMSC-1379	1999年3月
ビニルパイプ工場	合成管・継手の製造	日本科学技術連盟(JUSE) JUSE-EG-019	1999年7月
枚方製造所	鋳鋼製品、ポンプ、バルブ、建設機械、新素材製品の製造	ロイドレジスタークオリティーアシュアランスリミテッド(LRQA) 772527	1999年9月

海外生産拠点

事業所	主要事業	認証機関・登録番号	認証取得年月
The Siam Kubota Industry Co., Ltd.	エンジン・農業機械の製造	Management System Certification Institute (Thailand) EMS99001/001	1999年8月

内部環境監査員教育終了者数 (1999年9月現在)

1,027人

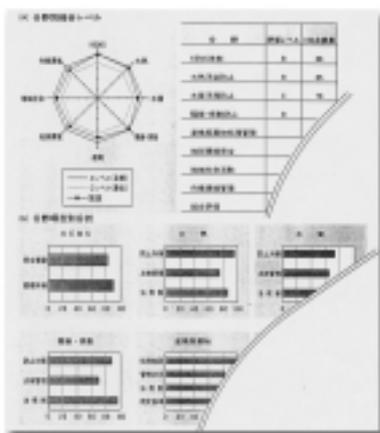
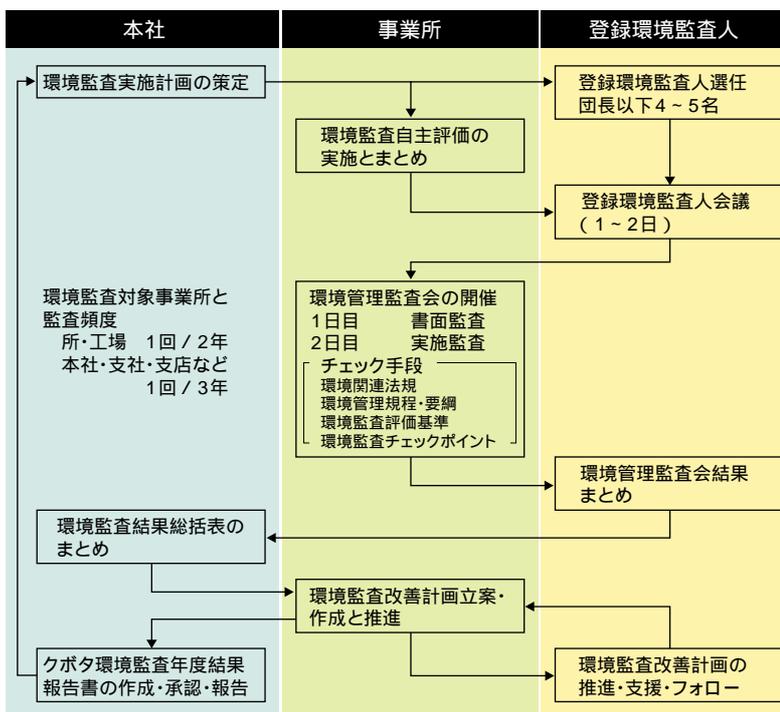
## 環境監査

環境監査は、企業活動における環境影響を自主的にチェックし環境活動をレベルアップするために不可欠な機能の一つです。

クボタでは、1973年から中央公害パトロール(監査)制度を発足させ、環境監査をスタートしました。その後、ISO 14001に準拠した制度に見直し、充実を図りました。

現在は環境監査評価基準に基づき、製造所・工場は2年に1回、本社・支社・支店などは3年に1回実施しています。監査の結果は項目ごとに点数化するなどして各被監査部門にフィードバックし、施策の見直しや目標の設定に活用しています。

### 社内環境監査実施体系



監査結果一覧表

### 環境監査評価基準の構成

環境監査の分野	チェック項目数
クボタ環境管理システム(KEMS)	42
大気汚染防止	33
水質汚濁防止	48
騒音・振動防止	25
産業廃棄物の処理・管理	39
地球環境保全	13
地域社会活動	7
作業環境管理	56
合計	263

## 環境活動目標と実績

環境調和創造企業をめざして、環境基本方針と重点推進事項を定めています。そして、その重点推進事項に従って環境活動目標を定め、達成に向けて活動を推進しています。

環境活動目標と1998年度の実績は以下の表の通りです。

項目	目標	1998年度実績
1. 地球温暖化防止	温室効果ガス排出量 1990年度基準2010年6%削減(COP3)	CO <sub>2</sub> 排出量8%削減
2. 省エネルギー対策	エネルギー原単位 1993年度基準1998年度5%削減 エネルギー原単位=原油換算エネルギー 使用量/内作生産高	1%削減
3. 産業廃棄物削減	処理・処分廃棄物量(埋立・焼却等) 1994年度基準2000年度30%削減	29%削減
4. ISO 14001 認証取得	2000年度までに国内全20事業所において ISO 14001を認証取得する	6事業所
5. 大気・水質管理	法・条例規制値よりも厳しい自主基準設定と 遵守	自主基準内
6. 作業環境管理	有害物質:第2管理区分職場数を 1997年度基準1999年度半減 22職場 11職場 騒音:第3管理区分職場数を 1996年度基準1999年度半減 118職場 56職場	有害物質4職場増加 騒音43職場減少

## 環境コスト

クボタでは現在世の中で注目されている環境会計について、1973年からクボタ独自の基準を設け、環境管理費用や環境設備投資額を集計し、環境管理活動のデータとして活用してきました。

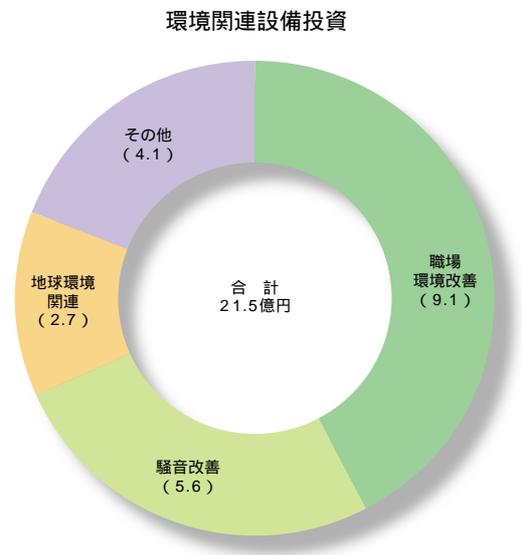
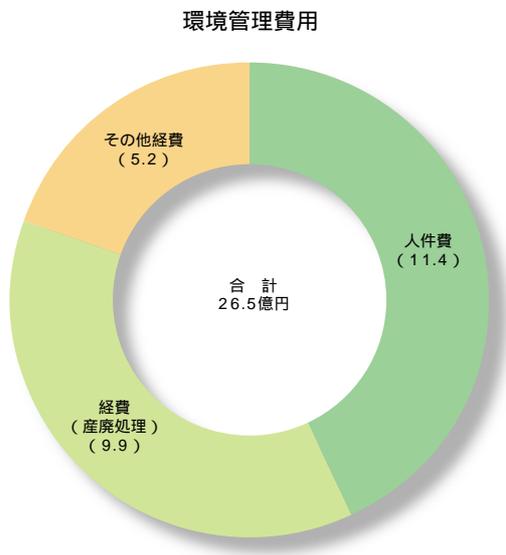
1998年度の環境管理費用は、26.5億円、設備投資額は、21.5億円です。なお、環境調和型製品開発に伴う費用・設備投資額は含んでいません。

一方、効果については、直接効果は27.7億円となりました。

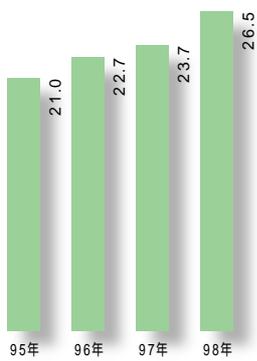
間接効果については、環境汚染防止に伴う機会損出低減の効果、環境調和型製品の売上げ増収効果等、算出定義が不確定なため、集計していません。

今後、環境管理費用・環境設備投資額等について、環境庁ガイドラインの項目を参考に集計することを検討していきたいと考えています。また、効果についても、集計項目を広げていきたいと考えています。

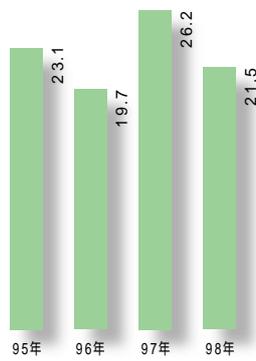
### 1998年度環境管理費用・設備投資の内訳



環境管理費用の推移 (億円)



環境関連設備投資の推移 (億円)



1998年度直接効果

分類	項目	年間効果 (万円)
省エネルギー対策	キュボラ廃熱利用、電力低減等	177,500
ゼロ・エミッション化	産業廃棄物減量化・再資源化	23,600
	有価物の売却額	16,200
ISO 14001 認証取得支援	内部環境監査員教育実施 (439名)	3,500
物流環境保全対策	モーダルシフト	43,300
	梱包・荷姿改善	12,800
合計		276,900